

年 月 日/

学校 年 組 番 なまえ

2024年12月4日付(共同通信社配信)

核実験被害も目に向けて

報道写真家の島田興生さん



54年3月1日、米国がマ
ーシャル諸島、ビキニ環礁で
水爆「ブラボ」の実験を
行い、周辺島民や静岡県の
漁船「第五福竜丸」の乗組
員らが被ばくした。これを
きっかけに反核運動が活発
化し、56年に被団協が生ま
れた。

「死の灰を浴びた60代の
男性はがんに侵され、骨が
浮き出るほど痩せ衰えてい
た。声を発することもでき
ず」のどかな風景の中に、核
実験の生き証人のように伏
せていた。3日後、妻と
娘2人を残し亡くなった。
大國に人生を狂わされた



ロンゲラップ島民が集団移住したメ
ジャト島。無人島だったが、島民の
努力で緑豊かな島に生まれ変わった
。2010年(島田興生さん撮影)

「ビキニ事件」から70年

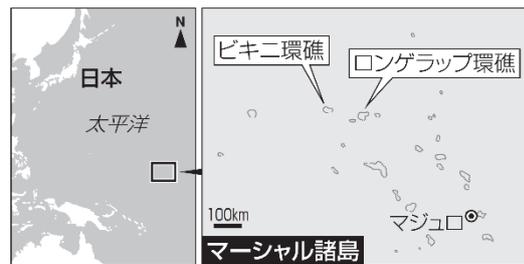
ノーベル平和賞に選ばれた日本原水爆被害者団
体協議会(被団協)結成の背景には、1954年
に太平洋マーシャル諸島で水爆実験が行われ、日
本漁船も被ばくした「ビキニ事件」があった。10
年以上続いた核実験で、島民らは被ばくによる健
康被害や移住を強いられ、影響は今も続く。現地
に半世紀通う報道写真家の島田興生さん(85)は神
奈川県葉山町に、授賞を機に「世界の核実験被
害にも目を向けてほしい」と願う。

マーシャル諸島 被団協結成契機、影響今も

人々の行く末を見届けよう
と、その後も継続して渡航。
85年から約6年間は首都マ
ジユロに住みながら関係を
深めた。毎年のように死者
が出る状況に耐えかね、ロ
ンゲラップ島民が家財ごと
無人島へと集団移住する瞬
間にも立ち会った。

ノート約300冊に及ぶ
取材で得たのは「核は長期
に影響を残す残酷な兵器
だ」という確信だ。ロシア
のウクライナ侵攻などを背
景に核使用のリスクが高ま
っているとして「脅威の記
憶が薄れているのではない
か」と危ぶむ。

マーシャルの島民代表が
日本での反核集会に招かれ
てきた歴史もある。「被害
を広島、長崎に閉じ込めず、
世界的なものに広げる努力
が必要だ」。今後の核廃絶
運動に期待を込めた。



【問1】 日本原水爆被害者団体協議会(被団協)が結成されるきっかけとなった出来事は？

【問2】 被ばくしたロンゲラップ島民の集団移住先は、どこ？

【問3】 報道写真家の島田さんは「核兵器」について、どう考えている？



よ
読めない文字は、かざくや、ともだちにきいてみてね